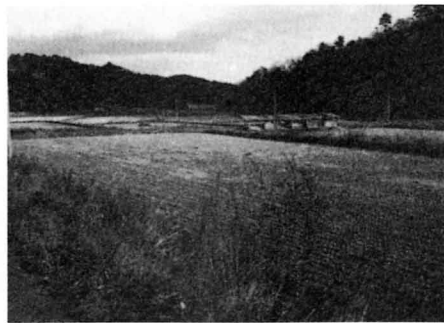


(2) 開進地区の開たく

大正6年(1917年)ごろに開たくされた、開進地区は、最近まで「越後開こん」とよばれてきました。越後というのは、今の新潟県のことです。それなのに、どうしてこんな名前がつけられたのでしょうか。

越後の国、現在の新潟県の三島郡

越路町は、信濃川の近くにあるため、雨の日がつづいたり、台風がきたりすると、そのたびに川がはんらんし、水びたしになってこまっていました。そのころの川のていぼうは、今のよう



開進地区の水田

のようにしっかりしたものではなかったために、せっかくみのった稲が流されてしまい、一つぶの米もとれなかった年が、たびたびありました。

町の人々は、どこか別の土地にうつり住んで、安心して米作りをしたいものだと、考えるようになりました。

ちょうどそんな時、越後の国から白河地方の杜氏(酒をつくる人)として働きに来ていた人から、「白河の近くには、開たくすれば米作りができる土地がある。」と聞かされました。

住みなれた町をはなれるのは、さびしく、かなしいことでしたが、なんとかやってみようと、決心しました。

農地を作るといっても、山にかこまれたあれ地です。今のよう

ブルドーザーやショベルカーがあるわけではありません。くわなどを使って土をほり起こし、「大八車」や「もっこ」で土をはこびました。思うように仕事が進まず、毎日毎日の土とのたたかいは、苦しいことばかりでした。